



みんなでひろがる。

LINKING PEOPLE TOGETHER

民俗芸能を未来へ。

地域を愛し、伝統の行事や自然を守るために日々活動。
個性と魅力にあふれる八重瀬町の民俗芸能を紹介します。





世名城のウスデーク



ぐしちゃん青年エイサー



字東風平の棒術

地域で息づく民俗芸能

八重瀬町では、各地域で行事にまつわるさまざまな民俗芸能が受け継がれてきました。

厄災を祓い五穀豊穡をもたらすとされる「獅子舞」は、ムラの守り神として4つの地域に継承されています。琉球王府時代から演じられている獅子舞は、沖縄戦によって獅子頭が失われました。生活基盤の整わない中でも人々は、戦後すぐに獅子頭を作り心のよりどころとし、現在も旧暦八月十五夜行事に披露されます。

ます。力強い勇壮な演武は、邪気を祓い座清めとして拝所などでも演武され、その技や演目、伝承の経緯に地域ごとの特色が見られます。

町指定無形民俗文化財である「安里」と「世名城」の「臼太鼓ウスデーク」または「ウフデーク」は、約180年から200年前に始まったと伝えられています。集落の繁栄や五穀豊穡を願う、女性のみで演舞されます。鼓を持つ音頭取りを先頭に、扇子を持った手踊りが続き唄いながら踊ります。安里は旧暦7月17日、世名城は旧暦8月15日にそれぞれ披露されます。

特色ある民俗芸能は他にも「新城のシーヤーマー」や富盛の「唐人行列」「大和人行列」などがあり、それぞれ町の無形民俗文化財に指定されています。

これらの民俗芸能は、旧盆や十五夜豊年祭などの行事の中で披露されます。その根底には、祖先への感謝や地域の繁栄、五穀豊穡などの「祈り」が込められており、これまで大切に継承されてきました。

平成26年には各地域の民俗芸能保存会が結集して八重瀬町民俗芸能連絡協議会が設立され、民俗芸能の保存・継承を推進しています。

八重瀬町指定無形民俗文化財一覧

富盛の唐人行列 富盛の大和人行列
富盛の女行列 世名城の臼太鼓
坡名城の獅子舞 新城のシーヤーマー
安里の臼太鼓



友寄の獅子舞



新城のシーヤーマー



安里の綱引き



富盛の道ジュネー

先人が残してくれた”財産“を 次代に受け継いでいきたい

字東風平の獅子舞は、レプリカが存在しない獅子として知られています。また、33年ごとに獅子頭を焼き、新しい獅子頭を移して代替わりを行うのも特徴です。獅子の交代儀式は、氏神拝殿で御願した後に、古い獅子の頭の毛を3本新しい獅子に植え付け、獅子の魂を移し替えます。その後、獅子の墓であるシーサー毛で古いシーサーを火葬します。

近年、字東風平では、豊年祭で獅子舞を演ずる保安員（ジュウニン頭）を選出するのに苦慮していました。ジュウニン頭は字東風平に伝わる役目で、旧暦の7月16日に開催される綱引きと、八月十五夜祭（豊年祭）を成功させるために集められる実行委員のようなものです。12人で構成され、任期は1年間。一生に一度はつとめなければならぬこともあって、部落の中から毎年青壮年を12人選ぶのですが、成り手が減っています。このような状況がずっと続いていることから「このままでは衰退していつてしまう」と危機感を覚え、2022年に字東風平獅子舞保存会を立ち上げました。記録に残る資料でも、ジュウニン頭について「保存会等を設置することで継続して話し合いを持つ



字東風平の獅子舞

こと」とあり、その必要性を当時の役員会でも認識していたと思われるそうです。加入希望者を募るため、私たちは字東風平全世帯にチラシを配布し、興味のある若者には直接声がけをしています。獅子舞は字東風平の誇りとするものであり、字東風平獅子舞保存会への会員加入が期待されます。

五穀豊穡や無病息災、安全を祈願する十五夜豊年祭は、先人たちが残してくれた大事な行事のひとつで、私たちの財産です。毎年継続して開催できていることは字東風平の誇りで、今後も末長く発展させていかなければなりません。

字東風平獅子舞保存会

書記・会計 中村通孝さん／副会長 我如古健輝さん／会長 金城毅さん／相談役 浦崎一郎さん（2023年3月撮影）



Interview

継承する喜び



町に伝わる伝統芸能にはそれぞれの特徴と深い歴史があり、次世代へ継承するために様々な思いがあります。



継承者の声 坂名城獅子舞保存会 仲村幸斗さん

子どもたちが継承したくなる 仕組みづくりを

坂名城の獅子舞は、地域の守り神として大切に受け継がれてきました。旧暦の7月16日には集落の通りを練り歩く道ジュネーを、十五夜には舞台上で獅子舞を披露します。平成元年に立ち上がった保存会は年齢層が高めで、後継者不足が問題になっています。私は高校を卒業してから入会し、獅子舞を継承しています。1回舞うとくたくたに疲れてしまうほど体力を使うので、若い人でないと厳しいですね…。先輩方から受け継いだ伝統文化を、今の子どもたちに繋げていきたいです。



継承者の声 志多伯獅子舞棒術保存会 神谷尚希さん

300年続く獅子舞を 継承したい

平成9年に立ち上げたのが志多伯獅子舞棒術保存会です。志多伯の獅子舞は約300年の歴史があり、豊年祭に演舞が披露されます。開催時期は法要周期と同様。1、3、7、13、25、33年忌の節目に当たる年にだけ行われ、33年忌が終わると翌年から初年忌に戻り、同様に繰り返して行われます。現在メンバーは30名ほど。課題は、伝統を次世代に繋いでいくこと。若手に興味・関心を持ってもらえるよう、公民館で様々なイベントを企画しています。



継承者の声 具志頭汗水節保存会 会長 新垣好惟さん

沖縄民謡“汗水節”を 正しく伝えたい

勤労の尊さや社会奉仕の心を説いた教訓歌「汗水節」は、沖縄を代表する教訓歌として沖縄やハワイ、南米の沖縄県人会でも親しまれていますが、ちまたで歌われている汗水節は一部本歌と異なる点も。平成元年に立ち上げた具志頭汗水節保存会は、本来の歌詞を一語一句変えることなく歌い繋いでいます。現在会員は18名ほど。高齢化に伴って活動参加者は減少していますが、若者へ語り継ぎ、伝えていくことは重要なので、日々の活動に取り組んでいます。